



包括ケア会議だより

こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

毎日雨が降り、太陽が夏休みに入ってしまったような日々が続いていますが、体調管理に気をつけ過ごしていきましょう。

今回の個別事例会議は、2事例検討しました。地域のケアマネジャー、医師、相談支援事業所、社会福祉協議会、社会福祉課の皆さんにご参加いただきました。

ケース1

保険者は市外、居所は市内で、ケアマネジャーが居宅サービスを調整していますが、支援に困っているケースです。

ご本人は収入が少なく就労を希望していますが、高次脳機能障害や麻痺があるため就職活動がうまくいきません。サービス費用の支払いが滞りはじめ、ケアマネジャーとして対応しきれない問題を多職種で協議すべく、事例検討を行いました。

今後は社会福祉協議会の生活困窮等の相談員が、ケアマネジャーと一緒に本人の就労支援を行うこととなりました。

ケース2

高齢の親が、引きこもっている子の対応に困っているケースです。

高齢夫婦とその子が暮らす世帯ですが、収入は親の年金と子の季節労働のみで世帯は経済的に困窮しており、医療や介護が必

要であるにもかかわらず利用していません。

認知症初期集中支援チーム員会議でもケース検討をした経緯がありますが、今回さらに地域福祉の視点を入れて支援方針等について協議を行いました。

今後、包括は高齢者の健康状態の確認や介護が必要になった場合の支援を行い、社会福祉協議会は子らの就労支援を行うなど、それぞれ役割分担することとし、当面は定期的な訪問を継続する中で一家との信頼関係を築くことを目標としました。

○「経済的な困窮が原因でサービス利用が進まないケースは多い」との意見が聞かれました。特に、高齢の親と働かない子の支援は、問題が複雑に絡み合っているため解決に時間がかかることがあります。関係機関が連携を図りながら支援を進めていく必要があることを確認しました。

6月の経過報告

ヘルパー事業所の協力が得られゴミの問題が解決しました。引き続き地域で支えあう力を強化していきたいと考えています。



困難事例がございましたら、一緒に検討していきたいと思っております。地域包括支援センターまでご連絡ご相談くださるようよろしくお願いいたします。

